

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室 (2 年 11/7~8 三倉岳・経小屋山、1 年 11/15 岩滝山~茶臼山~呉娑々宇山~藤ヶ丸山) 報告
2. クライミングスクール (11/1 三倉岳) 報告
3. 高体連広島地区大会 (11/7 C E R O・11/8 日浦山) 報告
4. 個人会員「ありんこチーム」活動 (11/8 比婆山登山道整備) 報告
5. J M S C A 登攀研修会 (11/14~15 福山) 報告
6. 登山部顧問安全登山講習会/研修会 (11/27 県立総合体育館・11/28 五日市高校) 報告
7. 岳連短信

1. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第 3 回 2 年生 11/7(土)~8(日)

登山形態: テント泊山行

山城: 三倉岳・経小屋山

人数: 8 名 (スタッフ含)

今回は開始時点で雨でしたので三倉岳の炊事棟でロープワークの練習をしました。夜は無事、ツェルト泊が実施できました。2 日目は天気が回復したので予定通り残念尾根に登りました。(森本)

(感想文)

『11月の山行を終えて』

(登山教室 2 年 池田 敦)

11月の教室の山行は、三倉、残念尾根の岩稜コースでした。今回の山行は、前回の山行と同じく 1 日目は雨、2 日は持ち直しましたが、1 日目の午前 8 時か

ら 9 時に雨はやむ予報であったにもかかわらず、結局午後 5 時ころまで降り続ける結果となりました。ですから 1 日目は、三倉キャンプ場の炊事場でロープワーク、昇降訓練、ラッペル訓練を十分時間をかけて受講することになりました。これはこれで実のある訓練だったのですが、三倉の実地でのラッペル下降がどれだけ怖いのか体験したかった。いや、できなくて少しはほっとしたというのが本音なのですが、雨のために計画どおり進まなかったわけです。

実は 2 年生 10 月の山行も 1 日目は雨に降られてしまい、ずぶぬれの山行となりました。この時も予報では昼前にはやむという予報であったにもかかわらず、結局は夜半まで本降りの状況でした。

私以外の 2 年生は、同じ月や前の月の 1 年生の山行に同行し、雨など降られない山行を経験してきているので、私が参加する 2 年生の山行になると雨が降ってくるという結果です。どうも私が雨男ではないかということになりました。私自身、日ごろの行いが悪いことは自覚しているので言い訳はできません。実のところ申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

でも、2 日目は絶好の秋晴れでした。

残念尾根の兜岩でプチクライミング訓練となりました。1 度目のトライではずり落ちてしまい、続けてトライするも、なかなか上に上がれず、時間をかけて足の位置、手の位置を教えてもらいながらやっと登りましたが、力づくで登ったので、もうへとへとです。次は、同じ岩のカンテ側から登ることになりました。前にもまして難しそうで、今度は切れ落ちていそうなので、恐怖感も増しそうです。やりたくないなと思いつつ、取り組むと最後で登れません、もうちょっとで

登れそうですが、足の位置、手の置き方が悪いのか、登れません、だんだん疲れてきます。足元を確認すると、やはり切れ落ちており、こんなところで、立ち往生するなんて、泣きたくなる気持ちです。スタッフの方の指導でやっとこさ登りきると、息が上がってすぐには動けない自分がなさけないやら、登れてほっとしたのやら、朝9時で今日の仕事は終わったという感じでした。

それから少し上ると今回の山行の核心部分の馬の背です。ロープを出して、スタッフの方が準備している間、私は気づかなかったのですが、岩に添えている手が震えていました。怖いという気持ちはなかったのですが、前のプチクライミングで手がつかれているのか、緊張から来る震えなのか、わかりませんが、前の岩をどうやって登るか、真剣に見つめていました。

ここで、やめようという選択肢は全くありませんでした。どうにかして前に進むしか考えていませんでした。やってみると、体が大きいせいか、わりと簡単に登り終えました。

この後も切れ落ちたところをロープなしで登っていくわけですが、落ちたらいけないので、自分なりに慎重に、3点支持をしっかりとしながら、上がっていきました。

岩稜が終わり、広場に出て、ハーネス、ヘルメットをザックに収めて、やっと緊張が解けました。これから、同じルートを下る計画もあったのですが、時間と危険を考慮された結果、これから頂上へ登り、登山道で下ることになりました。あの岩稜を下らないといふことに、私はほっとしました。ただ、登山道を1時間半、たんとんと下っていると、あまり面白くないなと思っている自分もいました。

今回の山行も楽しいというよりは、きつい山行でしたが、経験できたという達成感も感じられた山行でした。スタッフの皆様、受講生の皆様、ご迷惑をおかけしたと思いますが、これからもよろしくお願いいたします。

(右写真提供 森本)



第 6 回 1 年生 11/15(日)

登山形態：日帰り山行

山城：岩滝山～茶臼山～呉娑々宇山～藤ヶ丸山

人数：11 名 (スタッフ含)

今回も歩行速度を意識した計画をしました。1、2 年合同で班に分かれて行動しました。藤ヶ丸では来月にむけての冬山の装備の説明を実施し、計画した時間内で予定のルートを歩く事ができました。(森本)

(感想文)

『11 月・1 年生登山教室に参加して』

(登山教室 1 年 オバラ)

11 月 15 日秋晴れの下、紅葉を愛でながらの山行でした。JR 海田市駅から岩滝山～茶臼山～呉娑々宇山～藤ヶ丸山～ミノコージ峠～JR 瀬野駅へと縦走しました(歩行距離 17 キロ、累積標高+1465m 縦走時間 9 時間 10 分、雪山装備説明 50 分含む)。

これまで

6 月 行者山 距離 7.3 km 累積標高+510m

7 月 牛田山～松笠山～二ヶ城縦走 距離 17.5 km

累積標高+1358m

8 月 高城山～蓮華寺山～日浦山縦走 距離 11.8 km

累積標高+1002m

9 月 権現山～阿武山～茶臼山 距離 13.9 km

累積標高+1190m

10 月 高鉢山～安駄山 距離 14.1 km 累積標高+1291m
と長距離を歩く経験を積んできたおかげでしょうか、登山に適した気候も加わり会話も弾み受講生は要所所でコンパスセットし地図を読みながら元気に歩きました。途中 7 月の二ヶ城縦走路、8 月の高城山縦走路、9 月の阿武山縦走路、10 月の高鉢山縦走路がきれいに見え、歩いた稜線を目の当たりにして感慨深いものがありました。

今回は○本 CL、○田 SL が、ご自身の勉強会があるということで、○石さんが CL になられ SL ○元さん・○奥さん、サポート ○崎さん・○山さん、2 年生 2 名、1 年生 4 名の計 11 名でした。

○石さんは小柄な体に、ロープ、救急道具と大きな荷物を背負い、加えて皆を安全に指導、下山させるという責務を背負われての CL でした。緊張感はこちらにも伝わってきました。皆で一歩一歩丁寧に歩こうね

と声かけ、靴底はフラットフィッティング、浮石枯葉に注意と声を出し合いました。(怪我をしても、携帯で救助要請はできても背負えないよ～。と注意喚起の声！)

藤ヶ丸山頂で 12 月の十方山雪山山行の装備説明を受けました。2 年生の○田さんが装備一式持参してくださいました。ワカン、3 枚重ね冬手袋、雪かき用スコップ等々、12 月登山教室では雪の積もっていることを願って買いそろえたいと思います。

スタッフの皆様、受講生の皆様有難うございました。また一つ長距離を歩く経験が出来ました。

(以下写真提供 カモト)





2. クライミングスクール報告

(指導部 塩田 徹)

第4回 11/1(日)

山城：三倉岳

人数：受講生 6名

2020年度第4回クライミングスクールは三倉岳ABCフェイス周辺、中折アウトブロックでバックアップをしたラッペルを登山道沿いで練習の後、.6のクラック、.7のクラックを一回ずつラッペル。.6のクラックから登って来た想定で立ち木でインラインエイトムンターでセカンドのビレイ。じゃじゃまるエリアでポインタ.6、ピッコロ.8をトップロープで登りました。

(塩田)

『感想文』

(受講生 沖元 泰使)

コロナ禍の中再開されたクライミングスクールも3回目ですが、私は再開第1回目の参加でした。今回はクレイムヘイストでのバックアップをしたうえでのラッペル、セカンドのビレイといった、ロープワーク中心の講習でした。

ラッペルの方はスムーズにこなせましたが、セカンドのビレイではビレイをする場所の取り方が悪く、下でフォロワー役のスタッフが体重を掛けた時に、テンションの掛かったロープに足の甲を押さえつけられて身体がロープに巻き込まれるような形になってビレイが出来なくなり、傍で見守ってもらっていたスタッフに助けをもらう羽目になってしまいました。我々受講生が取り掛かる前に手本を見せてもらいましたが、何が一番大事なのかをしっかりと理解しないままに取り掛かってしまったことが問題なのだと、今こうして感想文を書きながら反省しているところです。恐

らく私はメインロープを支点となる樹木に固定するところ、インラインエイトノットを作るところ、これだけに意識が集中してしまっていて、安全にビレイをするために、自分の身体をどこに置かなければならないのか、ロープと自分の関係について何が危険なのかといったことに対する意識が抜けていたのではないかと思います。

スタッフの方々にはご迷惑をお掛けしてしまいましたが、助けてもらえる環境下で、危険だと感じられる体験ができたことは大変勉強になりました。「これは命懸けの遊びなんだ」という先輩の言葉を肝に銘じ、次回以降に臨みたいと思います。

(受講生 今岡 かおり)

2カ月ぶりのスクール参加に緊張しながら三倉岳駐車場に着くと色鮮やかに紅葉している木々を目の前に少し癒されました。

今回はまずバックアップをしてのラッペルを教えてくださいました。ビレイ用のロープにスリングでバックアップ用のフリクションヒッチをつくり下降しながらスリングを引き下ろすのですが、緩く縛ると落ちてしまうのではないかという恐怖心からなのかフリクションヒッチのスリングが動かないほどきつく巻きつけてしまい上手く下降できませんでした。

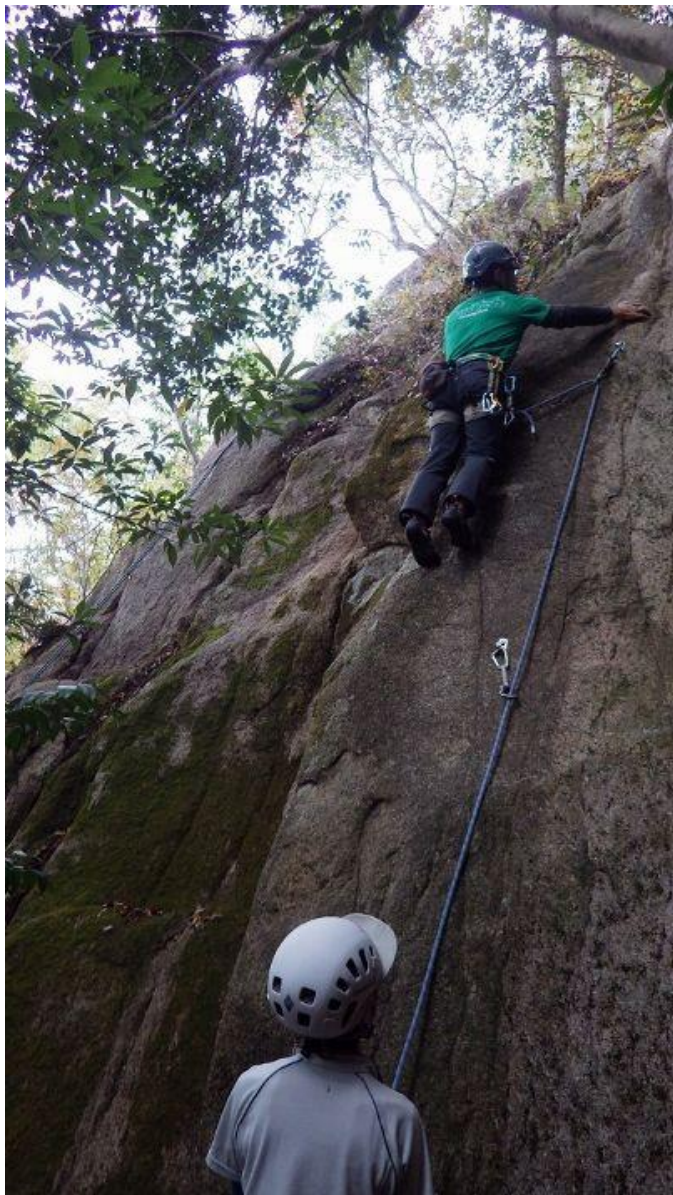
午後からは岩場を3本登りました。スクールでまだ一度も岩を登りることができていませんでしたが、今回も悪戦苦闘の中、1本だけどうにか登りることができました。他の2本は途中から上にも横にも進むことができず時間が経つにつれ腕が疲れてきてギブアップしてしまいました。岩にしがみつこうように腕をおくのではなく体と腕を少し離し岩と体の間に空間を作り足場を見る事、手より足をつかって登ることを意識するようにと教えていただきました。

立木を利用してのフォロワーの確保ではインラインエイトノットを何度もやり直し時間を要してしまいました。ロープワークの練習は家でもできるので、スクールで教わったことをロープワーク入門で再確認し復習しながら忘れないよう、まずは基本的なロープの結び方が完璧にできるよう身に着けていきたいと思います。基本的なことを何度も丁寧に教えて下さ

ったスタッフの皆さんに感謝します。

今年度のスクールも残り1回となりましたが、岩に登る楽しさを感じられるようチャレンジしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

(以下写真提供 塩田)



3. 高体連広島地区大会報告

(修道高校 西川 省吾)

●大会1日目 (11/7)

クライムセンターCEROにてスポーツクライミング競技会を実施しました。この大会は12月下旬に行われる予定の全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の県予選を兼ねています。

【大会成績】

リードの部

男子：①升田葉(廿日市・2年) ②田坂桔平(舟入・1年) ③末弘竜都(国際学院・1年)

女子：①大藪杏理奈(広島工大・1年) ②渡辺麗未(広島協創・1年)

トップロープの部

男子：①村田凜斗(広島学院・1年) ①小田一樹(廿日市・1年) ③岡信知宏(広島学院・1年)

女子：①白鷺風果(県立広島・2年) ②野見山弥希(県立広島・1年) ③高岡優夢(五日市・1年)

コロナ禍での大会実施ということで運営上の心配もありましたが、この数年で最も多い65名の参加者が集まりました。マスク着用、手洗い消毒、距離を保つことはもちろん、2週間前からの検温実施やマイロ

ープの持参（リードの部のみ）などの感染症拡大防止対策を講じました。

この結果、リードの部の男女上位2名に加え、昨年全国大会で準決勝に進出した延近陸空斗くん（福山葦陽・2年）の計5名が全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会への出場権を手に入れました。広島県代表として活躍してくれることを期待しています。

(※)

またトップロープの部では、普段はクライミングをしない生徒たちも楽しそうに競技を体験していました。クライミングの難しさや達成感を存分に感じてくれたのではないかと思います。

競技終了後は国際学院高校に移動し、学校施設をお借りして宿泊しました。感染防止対策のためテント泊は行っていません。

●大会2日目 (11/8)

2年前までは水分峡で自然壁のクライミング体験を行っていましたが、豪雨災害後は水分峡のキャンプサイトが利用できなくなっているため、日浦山での読図練習会に変更しています。

1日目の曇天とは打って変わって、秋晴れの中で気持ちの良い登山ができました。今年は県総体が中止になり思うように練習できていない学校もあるため、生徒にとっては貴重な読図練習の場になったのではないのでしょうか。

(※) その後、今年の全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会は残念ながら中止と決定されました。



トップロープの部



リードの部入賞者



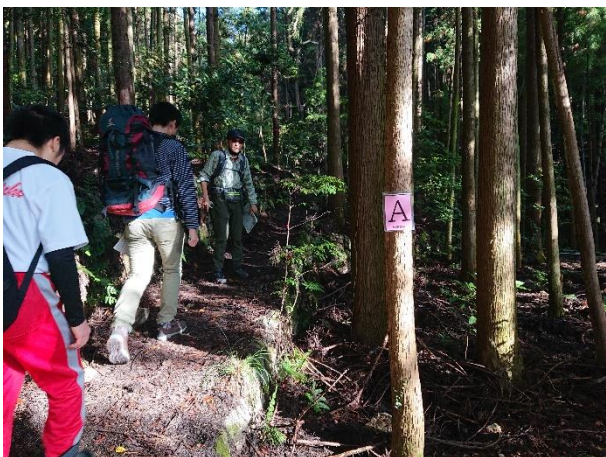
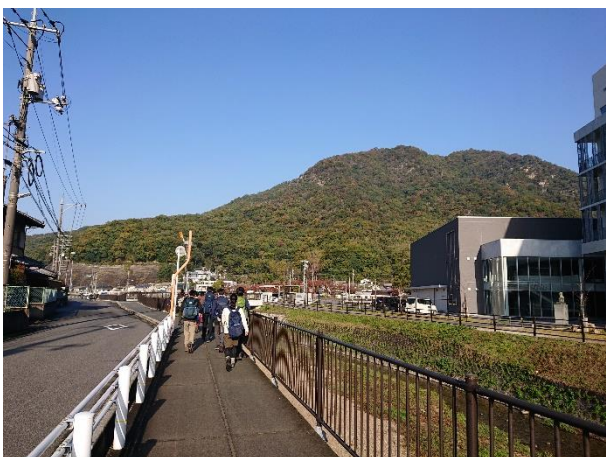
1日目夕方、国際学院高校での炊事



リードの部



2日目読図練習のコース



2 日目開会式・日浦山読図練習

4. 個人会員「ありんこチーム」活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

「比婆の森草刈り登山」

11月7日(土)午後 雨、8日(日)晴れ

参加者 26名

行動時間 9時～16時

今年度、新年互礼登山から個人会員の活動拠点といたく、「ありんこチーム」を立ち上げ、コロナ禍のなかで自粛をしながらも例会を実施することが出来、徐々に「ありんこチーム」の存在を知って頂ける状況になりつつあります。そんな中で持山清掃を考える中、今回の比婆の森の経営破綻と共に、登山道が見る見るの間に笹が蔓延る現実を見て、即比婆の森草刈り企画を、比婆の森元支配人(伊折氏)と検討し、実施に向かう。

前日7日(土曜日)は淋しく5名が集まり、三村氏(県庁山の会)の草刈り機の講習会、懇親会をする予定も雨。明日を心配しながら昼間から焚き火を囲み、お話タイム。三村氏差入れのジビエを誠に美味しく頂きながらの、ひと時を過ごす。

8日(日曜日)前日の雨も上がり、紅葉も最後が楽しめる条件の中で、6名のありんこチーム+20名の比婆の森に関りの深い方々が、草刈り機、大きな鎌、小さな鎌、熊手を手に意気揚々と比婆の森駐車場に集合。元支配人の伊折さんの指示に従い班編成。草刈り機の注意事項を聞き、それぞれのルートから毛無山の刈払いに出発。トラックに乗り、比婆スカのお手伝いを思い出しながら、登山口まで運搬してもらおう班と自力で移動する班とに分かれ、休憩を取りながらの作業。キキョウヶ丘、毛無山は刈払いの範囲も広く大変と思いつつながら、さすがに大人数、見る見る刈払いは進み、元の毛無山の姿にもどる。我々登山者が安全に山登りを楽しめるのも、誰かがこうやって整備して頂いていたお陰なんだと、しみじみ感謝しながら、最終の下り坂にかかる。皆大真面目での作業、結構な時間をかけ、最後の頑張りで全員怪我もなく六ノ原に16時、集合することが出来た。

今回少しでも手伝いが出来た事に誇らしく思えたのか、皆さんの顔が非常に爽やかに見えると共に、又機会があれば是非、是非参加したいの言葉。比婆の森

が元気を取り戻すように一人一人の心が届くように頑張りたいものです。

今回もこのような企画ができたのも、平山さんを初め、思いを共有できる仲間達が少しずつ、少しずつ集まって頂いていればこそ。又、多くの方に支援頂きましたことに、感謝申し上げます。やり遂げた気持ちとお礼に頂いた比婆の新米を抱えて、嬉しく帰路につきました。

今後の「ありんこチーム」の企画に皆さんの参加をお待ちしています。



ています。今年度は広島県での開催でした。近県の方はもちろん、埼玉県、石川県、宮崎県と遠方からの参加も頂きました。参加者：研修会 14 名 A 級主任検定 3 名 コーチ 2 検定 4 名

2019 年 6 月の全国指導委員長会議にて 2020 年度の広島県開催が決定されました。そこで 10 月の大阪府での研修会に下見参加し、その後数ヶ月準備を重ねて参りました。特に今年はコロナ禍での開催という事もあり、施設を予約しても JMCSA の感染防止対策の条件が追加される度に変更せざるをえなく、ご協力頂いた福山山岳会の皆様へは大変お手数をおかけ致しました。当日も会場のセッティング、各会場への移動や駐車場への誘導、お弁当の配給と隅々までお気遣い頂き真にありがとうございました。

遠方から参加された方々と懇親会が出来なかったのが、少し残念なところではありますが、なにより事故無く無事終える事ができてほっとしています。

受講された皆様、JMCSA の講師の皆様、挨拶頂きました山田会長、大田副会長、福山山岳会の原田様をはじめ、ご協力頂きました皆様ありがとうございました。

以下、受講生ならびにスタッフの感想文と研修会の写真を掲載します。

『コーチ 2 養成講習会を受講して感じたこと』

(福山山岳会 佐藤 竜也)

先日の講習会では、JMCSA の講師をはじめ、多くのスタッフのご指導のもと、より実践的な講習を行えたこと、大変感謝しております。研修で行った制動確保は、思ったより難しく、普段からロープを流すことを意識しながら確保することが大切だと感じました。私自身、フリーライミングをする機会が多いので確保技術には自信があったのですが、まだまだ未熟だと思われられました。また、懸垂下降では、降下まで予想以上に時間がかかり、ロープ操作の未熟さを痛感しました。普段の山行で、いかに自分が先輩に頼っているかということがわかりました。今回の研修で一番良かったことは、自分の今の實力を知ることができたことです。技術面だけでなく知識も未熟であると感じたので、日々研鑽していきたいです。今回の研修で得たことを、所属する会に持ちかえり、安全登山の普及に少しでも貢献したいと思います。

5. JMCSA 登攀研修会報告

(指導部長 森本 覚)

令和 2 年度 登攀技術に関する指導者の教育と研修、主任検定員養成講習会(A級)及びコーチ 2 養成講習会の報告

主催：(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

主管：(一社)広島県山岳・スポーツクライミング連盟

期日：令和 2 年 11 月 14 日(土)～15 日(日)

開催場所：備後遺族会館・クライミングゲレンデ/蔵

王岩山観音ルート

宿泊場所：福山ステーションイン

指導者の教育と研修事業の一環として、登攀技術研修会ならびに主任検定員養成講習会が毎年実施され

『登攀技術研修会スタッフとして』

（福山山岳会 妹尾 涼子）

登攀技術の机上講習とゲレンデでの実技講習・検定が11月14日15日の二日間にわたって行われ、開催地福山のスタッフとして参加しました。

コロナ感染予防対策のため、宿泊施設は個室になるように変更され、マスクの着用や手指消毒、換気に留意しつつ開催されました。皆さん熱心に聴講されており、実技講習ではしっかり復習できるように、講師の動きを動画で撮影される方が多くいらっしゃいました。

研修会の途中に山田会長や岡谷顧問をご案内することがあり、ありがたいことに少しお話をする機会を得ることができました。じっくり腰を据えて話をしたわけではなくほんの立ち話でしたが、経験のある方から直接聞く言葉は、本や雑誌で読むものよりはるかに重みがありました。目の前で進められている講習と重なって、自分の技術や経験値を伸ばしていかななくてはならない気持ちになりました。

コロナ禍の開催となりましたが、スタッフや参加者のご協力により無事に終えることができましたと思います。また、スタッフとして貴重な体験もできましたと思います。ありがとうございました。

『登攀研修会に参加して』

（日本山岳会広島支部 安松 崇）

私自身、経験もそれ程多くはないが、近頃、所属している山岳会で教える側の立場になった。自己脱出や確保法など一通りはできるが、教えるとなると別問題である。

常日頃感じているのは、登攀の技術はクライマーによって差が出る部分がある。勿論、核となる考えや経験から、違いがあるのは当然だと思う。しかし、入門した方に、指導者ごとに違うことを教えていると、混乱をきたすので、まずは標準となる技術を覚えていただきたい。私の中でそれを確認しておきたかった。

研修では、ロープの結びひとつをとっても、もし何か起きたときにバックアップできる方法を使っているということ。つまり、一つ一つの方法に明確な理由があり、それを理解することが、一連の動作を習得

するための近道であると気付かされた。また一連の指導を通じて、指導者に必要な姿勢を強く学んだ。

今回学んだことを、継続的に練習し身につけ、後輩のレベルアップにもつなげていきたい。

最後に、コロナ禍の中、万全な対策をしていただき、ご準備・ご指導くださりました、先生方、スタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。



机上会場の様子



JMSCA 蛭田指導委員長挨拶



山田会長挨拶



大田副会長挨拶



検定の様子



森本指導部長オリエンテーション



参加者一同



JMSCA 堤常任実技講習



実技研修の様子

6. 登山部顧問安全登山講習会/研修会報告

(事務局長・高体連 OB 西部 伸也)

① 令和 2 年度 広島県登山部顧問等安全登山講習会 (スポーツ庁/県教委主催)

11/27(金) 13:00~16:30 県立総合体育館小会議室
講師：田中卓志(県教委学校体育係指導主事)、後藤裕司(副会長・指導部/高体連担当)、西部伸也
受講者 12 名 (県内高校登山部顧問)

② 令和 2 年度 広島県高体連登山部 顧問等安全登山研修会 (県高体連登山部主催)

11/28(土) 8:30~12:30 五日市高校
講師：森本覚(指導部長)、新山まゆみ(指導部)
受講者 13 名 (県内高校登山部顧問および西部)

①は、2017 年 3 月 27 日の栃木県高体連登山部春山講習会(那須岳)での雪崩事故(生徒 7 名・教員 1 名が死亡)をうけて始められた講習会で、今年で 3 回目になります。上記の講師により、H29 スポーツ庁通知

(高校生等の冬山登山の原則禁止と例外的に冬山登山を実施する場合の条件・留意点)の確認、登山におけるリスクと対処、過去の(雪山)遭難事事故事例・発生原因と対応策、(雪山)大会コースの検討等について、知識の共有を図りました。

②は、登山部顧問の先生たちから実技研修を行いたいという希望があり、昨年から始められました。昨年は読図(ナビゲーション)を主眼とした研修でしたが、今年はレスキューを主眼とした研修で、三角巾やサムスプリントを使つての救急処置・ザックを使った搬送・ツェルト張り・簡易ハーネス使用の実技指導が上記講師により行われ、先生たちも意欲的に取り組んでいました。

以下、受講者の感想文ならびに講習/研修風景の写真を掲載します。

『安全登山講習会を終えて』

(広島国際学院中学校・高等学校 高橋 由樹)

この度の安全登山講習会では、登山における危険性とリスク回避における対処法や準備物を詳細に学ぶことができました。

1日目の講演では、西部先生と後藤先生に冬山や春山の危険性について体験談を交えてお話していただきました。特に低体温症への対応の仕方は大変勉強になりました。私自身、冬山登山の経験がないので、冬山に恐ろしさを感じますが、一面銀世界の景色は大変魅力的なので、周到な準備をして臨みたいと思います。また、

2日目の実習では、講師の先生方から、スリングやカラビナを駆使した搬送や危険個所の歩行、ツェルトの張り方などを勉強させていただきました。非常事態時に限られた装備の中で、いかに安全に、スピーディに対処できるかは、引率者である我々教員の知識や経験が重要になります。今回の研修で学んだことを忘れないよう、反復していきたいと思います、

最後になりましたが、この度の講習会でご講演、ご指導いただいた先生方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(安西高校 藤井 一郎)

登山部顧問研修会は栃木の雪山事故の翌年から開催され、今年で3回目だそうだ。1日目は、広島県教育委員会担当者によるスポーツ庁通知の読み合わせ、広島県山岳・スポーツクライミング連盟から講師を招き、1)ファーストエイド、2)雪崩等の雪山の危険についての考察を聞き、2日目は、連盟の指導部から講師を招き、五日市高校で、1)レスキュー、2)ロープワーク、3)ツェルト設営の実技研修を受けた。

どれもリアルな体験に基づいた講習であり、特に2日目のレスキューは凄かった。ザックを使って人を担ぎ下ろすとは思ってなかった。ロープワークもカラビナを使う事でテンションをかける方法は、僕のようなカヌー家にも使う場面は多いだろう。商売上とは言え、これが無料で受けられるのだからありがたいことだ。



1日目講習会



2 日目研修会 (右上も)

7. 岳連短信

寄贈御礼

- 福山山岳会『会報』R2. 12 月号
- 三原山の会『筆影』No. 489 (12 月号)
- 広島山岳会『山嶺』第 864 号 (R2. 11 月)
- 広島山稜会『峠通信』第 738 号 (2020. 12 月)
- 広島やまびこ会『やまびこ』No. 775 (1 月)

編集部より

- この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
- 会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
- この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。